令和４年１０月３１日
（２０２２年）

保護者の皆様

吹田市立山田第一小学校
校　長　速水　素子

## 令和4年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### １　教科に関する調査の分析

**(1)国語《概要》**

本校児童の平均正答率は全国平均値とほぼ同じでした。「読むこと」の正答率が全国より大きく上回る一方で、「言語文化に関する事項」については昨年度同様、全国値を下回り課題が見られました。また、全国的には「書くこと」の領域が低い傾向にあり、本校も同様の課題がみられました。

**《各領域における成果と課題》**

**話すこと・聞くこと**

・「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを捉える」ことは、全国値をやや下回りましたが、全体ではよくできていました。「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」ことは、全国値より上回っていました。

**書くこと**

・「文章全体の構成や書き出し方などに注目して、文や文章を捉える」ことは全国値を下回りました。
・「文章へに対する感想や意見を伝えあい、自分の文章のよいところを見つける」ことは全国値よりやや上回りましたが、全体としては低い傾向にあり、課題が見られました。

**読むこと**

・「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉える」ことは、全国値を下回りました。
・「登場人物の相互の関係について、描写をもとに捉える」ことは、全国値を上回っていました。
・「人物像や物語の全体像を具体的に想像すること」「表現の効果を考える」ことは、全国値をやや上回りました。

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**

・「漢字を文の中で正しく書き直す」ことは、全国値を下回っていました。
・「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」ことは、全国値をやや下回りました。

**今後の国語の改善点について**

・文章の指導をする際に、児童に文の書き表し方の力をつけるため、書き方のパターンを提示しながら指導していく。
・各学年の小単元にある文法の学習を丁寧に指導するとともに、たくさんの練習問題に取り組ませることで、問題に慣れさせるようにする。
・学校全体で効果的な漢字練習の方法を共有し、発達段階に沿って実践していく。
・漢字の反復練習に積極的に取り組む。

(2)算数《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均値をやや上回る結果でした。「データの活用」の正答率が全国より大きく上回り、「数と計算」「変化と関係」については全国値をやや上回りました。全国値を大きく下回る領域はないものの、全体としては「変化と関係」の正答率が全国でも本校でも低く、思考を伴う問題に課題が見られました。

《各領域における成果と課題》

数と計算

・「情報の計算をする」「最小公倍数を求める」「立式の理由を説明する」ことは全国値を上回っていました。また、「示された場面を解釈し、目的に合った数の処理の仕方を考察する」ことは、全国値をやや下回り、課題が見られました。

図形

・「正三角形の構成の仕方を考察する」ことは全国値を上回っていました。また、「図形を構成する要素に着目して長方形やひし形の意味や性質、構成の仕方を理解する」ことについては、全国値をやや上回る結果でした。

・「示された作図の手順をもとに、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる」ことは、全国値を下回る結果で課題が見られました。

変化と関係

・「百分率で示された割合と基準量から、比較量を求めること」「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」ことは、全国値を上回っていました。

・「百分率で表された割合を分数で示すこと」「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する」ことは、全国値をやや下回っていました。

データの活用

・「表の意味を理解し、全体と部分に着目して、ある項目にあたる数を求める」「分類整理されたデータをもとに、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する」「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る」ことは、全国値を上回っていました。

今後の算数の改善点について

・プログラミング的思考を使った作図学習を、教科書の学習と合わせて取り組んでいく。
・問題文をしっかり読んで解く問題、順序立てて考えを進めていく問題等、思考力をつける学習に各学年で取り組む。
・答えをどのように求めたのかがわかるように、求め方を式や言葉を使って筋道を立てて説明する取組を進め、説明や解答をペアやグループで吟味する時間をもち、対話し伝え合う学習を増やしていく。
・問題文や写真の提示だけではなく、ジュースを実際に分ける、粘土を分ける等、実物を操作するという学習活動を取り入れ、日常生活に即した課題に興味や関心を持たせるようにする。特に、低学年のうちから、生活体験を算数の学習に取り入れることを積み重ねていく。

(3)理科《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均値をやや上回る結果でした。「エネルギー」の正答率が全国よりやや下回りましたが、他の「粒子」「生命」「地球」はすべて全国値をやや上回りました。問題形式では、記述式の問題が全国値をやや下回り、書いて答える問題に課題が見られました。

《各領域における成果と課題》

エネルギー

・「問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を記述する」ことは、全国値を上回りました。

・「日光は直進することを理解する」「実験で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えを記述する」ことは、全国的に正答率が低い傾向があり、本校でも同じ傾向が見られました。

粒子

・「メスシリンダーという器具を理解する」「自分の予想と実験結果をもとに、問題に対するまとめを検討改善

し、自分の考えを持つ」ことは、全国を上回っていました。
・「自然の事象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析解釈し、自分の考えを書く」ことは、全国値をやや上回ったものの、全体的な正答率は低い傾向にありました。

生命

・「問題解決の道筋を構想し、自分の考えを持つ」「昆虫の体のつくりを理解する」「提示された情報を複数の視点で分析解釈し、自分の考えを持つ」ことは、全国値をやや上回っていました。
・「自分が観察した情報と追加された情報をもとに、問題に対するまとめを検討改善し、記述する」ことは、全国値をやや下回っていました。

地球

・「観察で得た結果を問題の視点で分析解釈して、自分の考えを持つ」ことは全国値をやや上回り、「観察などで得た結果を結果から言えることの視点で分析解釈し、自分の考えを持つ」ことは、全国値を上回っていました。
・「水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解する」ことは、全国値をやや下回り、「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通し、問題を解決するまでの筋道を構想して自分の考えを持つ」ことは、全国値を下回りました。

**今後の理科の改善点について**

・実験や観察など、体験を通した学習を大切にして指導していく。
・実験の分析や考察をノートにまとめたり、仕組みをノートに記述したりする活動に取り組む。
・対話的な学習を通して、友だちに説明したり、考えを伝えたりする活動(発表や班活動)を各学年で取り組む。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### (1)学習環境・生活環境について

生活について

・「毎朝同じ時間に起きる」「毎日同じ時間に寝る」「毎日朝食を食べている」と肯定的に回答した児童は、全国値よりやや高い傾向にありました。
・平日の家庭での学習については、全くしていない児童の割合が全国より上回っていました。土日祝の1日当たりの学習時間（塾や家庭教師、インターネット学習も含む）については、2時間以上3時間より少ない児童、3時間以上4時間より少ない児童の合計が全国値を上回る一方で、全くしていない児童も全国値をやや上回る結果でした。家庭での学習をしている児童と全くしていない児童がいて、学力の二極化を感じる結果でした。
・家庭での読書について、全くしていない児童が全国値を大きく上回っていました。

携帯(スマートフォン)、ICT 機器について

・1日当たりのゲームに使う時間について、昨年度に比べ平日4時間以上が全国値を下回りました。昨年より過剰にゲームをしている子の割合は減っていることがわかりました。
・携帯やスマホでのSNSや動画視聴については、2時間以上3時間未満が全国値を上回っており、30分以上見ている児童も全国値を上回りました。ゲームしている児童が減っている分、YouTubeなどの動画視聴、SNSの利用の時間が増えている可能性があります。
・家庭で決めたスマホやコンピュータなどのICT機器のルールを「きちんと守っている」と回答した児童は全国値より上回りました。しかし、「あまり守っていない」と回答した児童も全国値をやや上回っていました。きちんと守っている児童と、ルールを守っていない児童とで差がありました。

タブレットやICT機器を使用した学習について

・授業でのPC・タブレッドなどのICT機器の利用について、週3回以上と回答した児童が全国値を大きく上回っていました。
・学級の友達と意見を交換する場面でのPC・タブレットなどのICT機器の利用について、週1回以上～ほぼ毎日と回答した児童が全国値を大きく上回っていました。

**自分自身について**

・「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は、全国値よりやや上回っていました。
・「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した児童は、全国値より上回っていました。
・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と、ほとんどの児童が肯定的に回答しました。
・「困ったことを学校の先生に相談できる」と肯定的に回答した児童は、全国値を大きく上回っていました。
・「人の役に立つ人間になりたい」とすべての児童が肯定的に回答し、全国値を上回っていました。
・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と肯定的に回答した児童は、昨年度よりも多く、全国値を上回っていました。

**児童への生活・学習アンケートの結果について**

・生活については、ご家庭の協力で、比較的規則正しい生活を送れていることがわかりました。家庭学習については個人差が見られるので、家庭学習支援をしながら、学校以外での学習の定着に努めます。また、読書体験が少ない現状があるので、学校図書室の貸し出しや、タブレットで借りられる市立図書館の「すいた電子図書館」などの利用を積極的に推進していきます。
・携帯(スマートフォン)、ＩＣＴ機器については、家庭でも使用している児童は多く、きちんとルールを決めて守っている児童も多い反面、ルールをあまり守っていない児童もいるという結果でした。また、ゲーム時間は減っている一方で、動画やＳＮＳの時間が増えている現状があります。今後も家庭と協力して、適正な時間の使い方やＩＣＴ機器の取り扱いについて指導していきます。学校では吹田市で進めているデジタルシチズンシップ教育を継続して行い、児童が自ら安全に安心してＩＣＴ機器を使用できる力をつけていきます。
・学習については、ＧＩＧＡスクールで導入されたタブレットが概ね学校の授業に定着し、授業のツールの一つとして、日常的に活用されている様子がうかがえます。今後も適切な場面でＩＣＴ機器やタブレットを活用し、児童のＩＣＴスキルを高めていきます。
・自分自身については、本校の児童の自己肯定感は高い傾向でしたが、そうでない児童もいることを常に忘れず、児童を支援していきます。いじめについてはよくない、と捉える児童がほとんどでした。考えを行動で示すことのできる児童を育てるよう、今後もいじめ予防授業の取組を進めていきたいと思います。また、いじめにあったときに、学校の先生に相談できるか、というのも大切なことです。今回の結果では、昨年度よりも相談できるという肯定的な回答の割合が大きく増え、少し安心しました。今後もアンテナを高くして児童に寄り添い、いじめのない集団づくりに努めてまいります。人の役に立つ人間になりたいと、すべての児童が考えているという結果からは、改めて普段の学校生活や授業の中で、児童に自己有用感を育む取組の重要性を感じました。児童の「必要とされる人になりたい」という気持ちを大切にしながら、授業や学校行事に取り組んでまいります。

## ３ おわりに

コロナ禍はまだ続いておりますが、学校の教育活動は徐々に元に戻りつつあります。今回の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教職員一同、より質の高い教育活動を目指し、精進してまいります。また、ともに児童の教育に携わるパートナーとして、ご家庭と協力してまいりたいと思います。どうぞ、ご協力をよろしくお願いいたします。